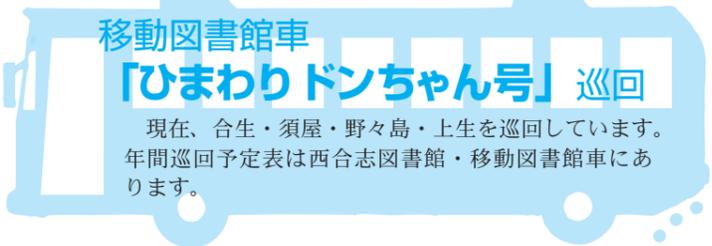




毎週土曜日 午後7時30分～9時
 場所：西合志図書館天文台
 参加費無料
 ※雨天・曇天の場合中止します。
 天候が優れないときは、来館前に電話で確認ください。

☆6月の星空☆

先月に続き、南の空には木星が、西の空には火星と土星が輝いています。さらに下旬には、西の空低く水星が姿を現します。天頂付近には春の星座の代表格、うしかい座やおとめ座が輝いていますが、東南の空にはさそり座、北東の空にはこと座やはくちょう座といった夏の星座が姿を見せています。星々の世界でも、夏はそこまで来ています。



移動図書館車
 「ひまわりドンちゃん号」巡回

現在、合生・須屋・野々島・上生を巡回しています。年間巡回予定表は西合志図書館・移動図書館車にあります。



★西合志図書館 (☎242-5555)

♪マインドシアター(入場無料)♪

とき 6月24日(土) 午後1時～
 ところ 「西合志図書館集会室」
 題名 『あらしのよるに 1』

♪おはなし会(入場無料)♪

とき 毎週土・日曜日 午後2時～
 6月3・4・10・11・17・18・24・25日
 7月1・2・8・9日
 ところ 西合志図書館「おはなしの部屋」

♪利用者自己処理端末が
 使えるようになりました♪

利用者の皆さんからご要望が多かった、利用者自己処理端末を西合志図書館のカウンターに設置しました(平日のみのご利用となります)。

臨時休館前の操作方法と違ってしますので、まずは操作説明パネルをよくお読みになり、わからない箇所は図書館職員にお尋ねの上、貸出処理の漏れがないようご使用ください(最後にレシートをご確認ください)。

開館時間・休館日の変更について

4月1日から下記のとおり変更しています。

開館時間

○火・水・木・金・土 午前10時～午後6時
 (西合志館のみ木曜日 午前10時～午後8時)
 ○日曜日・祝日 午前10時～午後5時

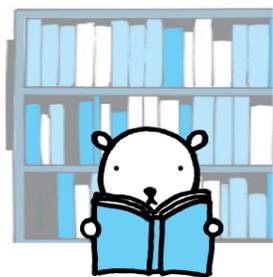
★合志図書館 (☎248-5754)

♪ふれあい映写会(入場無料)♪

とき 6月18日(日) 午後1時30分～
 ところ 「多目的研修室」合志図書館よこ
 題名 『シャーク・テイル』

♪ふれあいおはなし会(入場無料)♪

とき 毎週土曜日 午後2時30分～
 6月3・10・17・24日
 7月1・8日
 ところ 合志図書館「おはなしコーナー」



休館日

○月曜日(祝日の場合は翌日が休館)
 ○毎月末日(資料整理日：ただし土曜・日曜・祝日の場合は開館)
 ○特別整理期間、年末年始

表紙の説明

5月13日、西合志図書館で小学6年生20人が参加し、「図書館読書探検隊」が行われました。これは「子ども読書の日」の取り組みとして、企画されたもので、図書館の本に囲まれ、好きな本を読みながら眠りについた子どもたちは、どんな夢をみたのでしょうか。



西合志図書館 (☎242-5555)
 合志図書館 (☎248-5754)

ひまわりドンちゃん

「バッテリー」等で知られる児童文学作家のあさのあつこさんが初めて書いた一般向けの時代小説です。いわゆる捕り物帖なのですが、主人公の伊佐治の人生や、人間に対する考察が印象に残る味わいのある作品になっています。岡っ引き伊佐治と同心小暮信次郎。う～ん。シリーズになんないかなあ。



『彌勒の月』
 あさのあつこ 著

『ウルトラ・ダラー』
 手嶋龍一 著



若い彫刻職人の拉致から35年、北朝鮮製ウルトラ・ダラー(超精巧偽百ドル札)が出現する。それに続く一連の出来事は、東アジア、米
 国を巡る覇権争いの縮図をしいに焙りだしていく。

新刊お薦め本

新着本

一般書

『ザ・漱石 上巻 大活字本』 夏目 漱石
 『ザ・漱石 下巻 大活字本』 夏目 漱石
 『深夜の見舞い客』 赤川 次郎
 『SWITCH スイッチ』 さとうさくら
 『わたしを離さないで』 カズオ・イシグロ
 『イリュージョン』 リチャード・バック
 『カンニング少女』 黒田 研二
 『息を聴け 熊本盲学校アサンブルの挑戦』 富田 篤
 『エピソードでつづる吉田松陰』 海原 徹
 『化学の不思議がわかる本』 成美堂出版
 『こうすれば登れる! 憧れの名山』 大関 義明

児童書

『ウソがいっぱい』 丘 修三
 『ちび魔女メルフィー』 アンドレアス・シュリューター
 『発覚、シーボルト事件』 小西 聖一
 『妖怪サーカス団がやってくる!』 藤野 恵美
 『ミシシッピがくれたもの』 リチャード・ベック
 『きつとどこかの空の下で』 三輪 裕子
 『エジソン』(絵本) こわせたまみ
 『らっこのうみ』(絵本) 手島圭三郎
 『うれしいがいっぱい』(絵本) 新沢としひこ
 『ももんちゃんぼっぼー』(絵本) とよたかずひこ
 『十歳のきみへ 九十五歳のわたしから』 日野原重明



『明日の記憶』 荻原 浩 著

映画化で話題の本ですが、発刊は2004年。当初より読者の評価も高かった小説です。

毎日、旺盛に仕事をこなす50歳の主人公を突然襲った「若天性アルツハイマー病」。がく然となりながらも、彼は、記憶の忘却(=自分を失う恐怖)と必死に戦い始めます。

綴られていく主人公のあせりや絶望、悲しみや喜び。映画と違い、物語は彼の視点で語られるため、読者は、次第に主人公と一体化していき、グイグイ話の中に引き込まれていきます。やがて迎える悲しい結末。が、読後感決して悪くありません。むしろ深い感動を覚えることでしょう。

今話題の本